

(3-1) 第1回大崎圏域会議

【日時】令和6年1月10日(水) 13時30分から15時30分まで

【場所】大崎合同庁舎1階 大会議室

【委員からの主な意見】

- 圏域の中でも地域によって回復状況に差があるので均衡ある支援も考えてほしい。
- 現状分析がしっかりできている。分析を踏まえ観光振興をどうしていくか議論してほしい。
- 第5期観光戦略プランの実施状況としてまとめたデータは大変見やすくよかった。
- 第5期観光戦略プランとコロナに対する対策がしっかり実行されて生かされたのが数字に表れていると感じる。
- 宿泊税の用途を明確にした方が観光客の理解が得られると思う。単に財源が足りないではなく、宿泊税に対する仙台市と仙台市以外の考え方が違うことももう一度議論してほしい。
- 宿泊税について、負担者や宿泊事業者に目に見える形で効果が実感できるようお願いしたい。
- 宿泊税の導入が諸刃の剣にならない配慮・工夫が必要なことに注意しながら進めてはどうか。
- 女川から鳴子までの横串にある町として協力の仕方はあると思うが、道路事情が悪いことから、石巻酒田間の高規格道路の早期開通があれば県北の観光も動き出すのではないかと。
- 宿泊業の経費が多大となっているほか、観光客もシビアになっているため、宿泊単価を上げるのが厳しい中で経営努力をしている。今までなかった税の導入に不安もあるので、理解を得るのは難しい状況にある。
- 宿泊税導入自治体は、観光的に有名な大都市であるが、厳しい状況の中で宮城県が先鞭を切って導入することの是非とタイミングや、一律の税額でいいのかという感じがする。
- 県北は人口が減って人材確保が難しい中なので、大崎圏域はデジタル化の方向に舵を切って、人手のかからない仕組みに投資し、それに県や国が支援をしていくのが大切と考えている。
- 宿泊税については、経営が厳しい状況ではなく、ある程度の収支が整うタイミングがベストと思う。税率も一律だと施設によって負担の度合いが違うので、改めて考えてほしい。
- 宿泊税のタイミングは今なのかと正直思うが、そもそも宿泊税は反対である。低価格の宿では入湯税プラス宿泊税は常連客やリピーターに負担がかかる。物価高騰でも料金を上げずにやっている中で、宿泊客から預かるものだとしても、迎える側としては心苦しい。
- 観光財源確保が大切なことは理解するが、物価が高騰している時期に宿泊税を導入するのはどうかと思う。用途についても慎重な協議を重ねる必要があるのではないかと。
- アニメツーリズムだけでなく、酒蔵ツーリズムやジラスツーリズムも推進していくので、支援いただきたい。
- 観光振興施策を推進するためには、公共交通機関の維持・存続が必要不可欠だと思う。
- 宿泊税の導入に当たっては、慎重な議論を重ねる必要があると感じる。
- 宿泊税で何かできないかを考えた際に、ホテルなどの宿泊施設は人手不足が深刻であるため、経理システムの導入により業務を効率化するなど、DXを推進して収益力向上に取り組める施策が必要だと感じる。
- 宮城県観光連盟のDMO化については、先行している東北の中のDMOを含めて課題を検証し、県としてどういう形で運営するかを明確にした方がいいのではないかと。国の支援メニューを活用する際には、市町村との連携についても検討してほしい。

- 観光地の特徴を出していくには、県内で競争力を高めていくことも必要になるので、県内のDMOをサポートできる組織にしてほしい。
- 失敗しているDMOも結構多いと聞くので、成功事例などを踏まえるのがいいと思う。
- データ分析や市町が連携して取り組む場合には、DMOの存在が大きいので期待している。